

【数字を読み解く】 271 億円

～21 年中の大分税関支署管内におけるロシアとの貿易総額
ウクライナ情勢の影響注視～

<2022/4/1 大分合同新聞掲載>

数字は、財務省が毎月公表している「貿易統計」にある、2021年中の大分税関支署管内におけるロシアとの貿易総額（輸出額と輸入額の合計値＝名目ベース）だ。これは、日本とロシア間の輸出入のうち、大分税関支署管内の4官署（大分港、大分空港、津久見港、佐伯港）に申告された金額の合計を指す。県内企業による輸出入であっても、大分税関支署管外の港湾（門司港や関西の港など）で申告された場合には、本数字には含まれない。

ロシアによるウクライナ侵攻と、それに伴うロシアへの制裁などの動きは、さまざまな経路を通じて当地の経済・物価動向にも影響を及ぼすと考えられる。大分税関支署管内における21年中のロシアへの輸出額は2.4億円（全体の0.03%）、ロシアからの輸入額は268.6億円（同1.86%）、ウクライナとの輸出入は皆無であり、両国との貿易量自体は小さい。ただ、原油や天然ガスなどのエネルギー、小麦などの穀物、ニッケルなどの金属を中心に国際商品市況が大幅に上昇しており、これが企業収益の悪化や家計の支出意欲に悪影響を及ぼす可能性がある。この間、ロシアとの経済的な結びつきが強い欧州などでの景気減速が、県内企業の事業活動に間接的な悪影響を及ぼす懸念もある。

今後もウクライナ情勢が、家計の消費マインドおよび企業の収益動向、経営行動に与える影響などに注視していきたい。（日本銀行大分支店）